

2023年度(令和5年度)「重点研究」成果発表会資料

開催日：2024年6月11日（火）

実習における保育学生の感情管理方略に関する研究

上山 瑠津子・池田明子・松尾浩一郎
（福山市立大学教育学部）

問題と目的

ヒューマンサービス職と感情労働

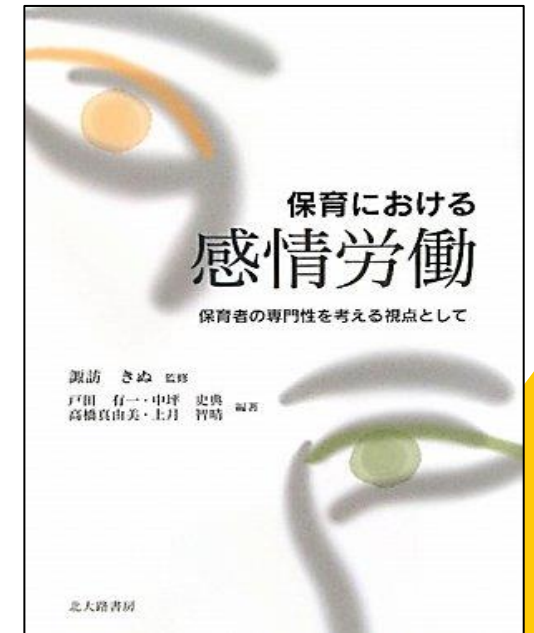
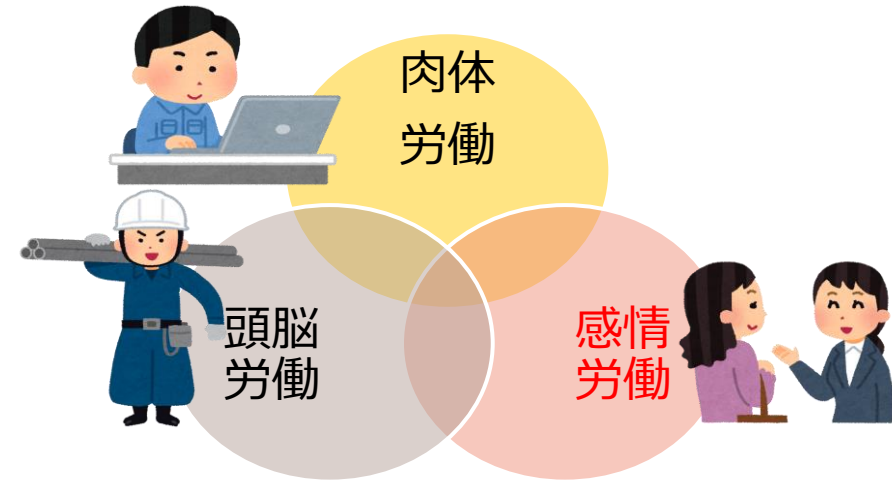
感情労働 (Hochschild, 1983)

「感情労働とは、公的に観察可能な表情と身体的表現を作るために行う感情の管理であり、それは賃金と引き換えに売られるため〈交換価値〉を有する。類義語である「感情作業」、「感情管理」は私的文脈における同種の行為を意味するものであり、それらは〈使用価値〉を有する」

保育者の専門性を考える視点として「感情労働」(諏訪, 2011)

意義① 保育者が自らの感情を率直に見つめ語ることによって、保育者の専門性に関わる問題を根底から問い直すことができる。

意義② 感情労働に付随する言葉（「感情演技」「ポジティブ感情」「ネガティブ感情」など）を用いることで、保育行為を感情の流れに沿って振り返りやすくなる。



【教師研究における感情労働の位置づけ】

実践の状況に応じた感情管理（表出や抑制）は，子どもの学校生活における望ましい社会的行動を喚起する教師の援助方略（伊佐，2009；木村，2015）

例えば，教師が子どもの心に働きかける（クラスの雰囲気をやかにして子どもの安心感を持たせたり，反対に緊張感を持たせるなど）ために表情や声のトーンを装うことを「教育的演技」を行う（伊佐，2009）



教師や保育者の援助方略として捉えることで，養成教育で学習し，育成可能な資質能力として検討できる

保育学生の実習経験

保育学生にとって実習は、実際に子どもや保育者と関わる中で、対象や状況に合わせた**感情の表出や抑制を実践し、学ぶ機会**となる。

- ・ 指導案や保育技術と同様に「笑顔」が評価の対象となっている（上月, 2011）
- ・ 保育者の様子を観察しながら、子どもへの対応を学び、実践することで、明朗な態度の表出は子どもの変化につながることを理解する（高橋, 2012）

保育者としての適切な振る舞いや態度としての感情管理が求められる。

【本研究の目的】

保育学生は、子どもや保育者に対して、喜びや嬉しさなどのポジティブ感情、怒りや不安などのネガティブ感情について、どのような感情管理方略を用いているのか？

方法

調査対象者 保育所実習および幼稚園教育実習に参加した保育学生101名のうち、回答の得られた64名（回収率63.3%，女性63名，男性1名，平均年齢20.50歳，SD = 0.51）のうち，を分析対象とした。

時期と手続き 20XX年8月～10月上旬，実習事後指導終了後に，Microsoft Formsを利用した自由記述式の質問紙調査用を実施した。

調査内容 実習中の感情表出や抑制に関する質問を行った。

- ①子どもや保育者と接するときに実習生として意識した振る舞い
- ②**ポジティブ感情（喜びや嬉しさなど）やネガティブ感情（怒りや不安など）表出するときに意識したこと**
- ③実習先の保育者の子どもや実習生，同僚保育者に対する感情表出で参考になった点
- ④保育者志望度（4件法で「全くなりたくない」から「非常になりたい」）

倫理的配慮として，調査実施に際して，口頭と文書で調査趣旨，調査内容を説明し，研究協力の同意を得た。回答は匿名で求められ，回答の有無は成績等の評価に関係しないことを説明した。

分析方法 計量テキスト分析ソフトKH Coder（Ver.3.01）を使用。

自由記述によるテキストデータ分析では、分類、集計作業における恣意性、客観性が課題になる。そこで、テキストから自動的に語を抽出し、頻出語を確認した上でそれらの語の出現パターンの組み合わせ等を探ることができる計量テキスト分析（樋口ら、2022）を採用した。

※対象ごと（「子ども」に対する感情管理と「保育者」に対する感情管理）に分けて分析した。

【分析の手順】

①前処理として使われ方を確認した上で、表記のゆれの統一や漢字変換などを行う。

（子供・こども→子ども、声色→声のトーン、顔→表情、うれしい→嬉しい、出す→表す、先生・保育者→園の先生、助言→アドバイス）

②抽出語を確認し、語として区切られると意味が変わる単語を強制抽出語として設定。

（ポジティブ感情・ネガティブ感情・研究保育・部分保育・保育者・声のトーン・ガッツポーズ・オーバーリアクション・ハイタッチ・具体的・反省会、子どもの姿、園の先生）

③頻出語をカテゴリー化するために共起ネットワーク図を作成し、まとまりを確認。

④KWICコンコーダンスで特徴語の具体的な文脈での使われ方を確認し、分類しカテゴリー名をつける。

結果：「子ども」に対する感情管理～頻出語～

テキストデータより4173語が抽出され，そのうち1692語を分析に用いた。

表1 「子ども」に対する感情管理の品詞別出現度の高い語（出現数6以上）

	名詞	動詞	形容詞	形容動詞	タグ
子ども	70 喜び	11 伝える	63 嬉しい	29 真剣	12 ネガティブ感情 43
声	49 一緒	11 伝わる	32 悲しい	8 不安	12 ポジティブ感情 38
表情	45 ジェスチャー	9 見る	17 高い	7 嫌	10 ハイタッチ 12
トーン	38 顔	9 喜ぶ	13 良い	7	具体的 7
言葉	32 手	8 出す	13 大きい	6	
表出	27 注意	8 表す	12		
笑顔	22 拍手	7 話す	11		
表現	20 自分	6 変える	8		
気持ち	19 怒り	6 使う	7		
感情	18 理由	6 下げる	6		
目	16 共有	6 分かる	6		
行動	15 緊張	6 褒める	6		

- 「声（49）」「表情（45）」「トーン（38）」「笑顔（22）」「目（15）」「ジェスチャー（9）」などが多く出現→**非言語的なアプローチ**にかかわる語が多かった。
- 動詞では「伝える（63）」「伝わる（32）」が頻出→**感情の受け手（子ども）**への意識

結果：「子ども」に対する感情管理～語同士のつながり～

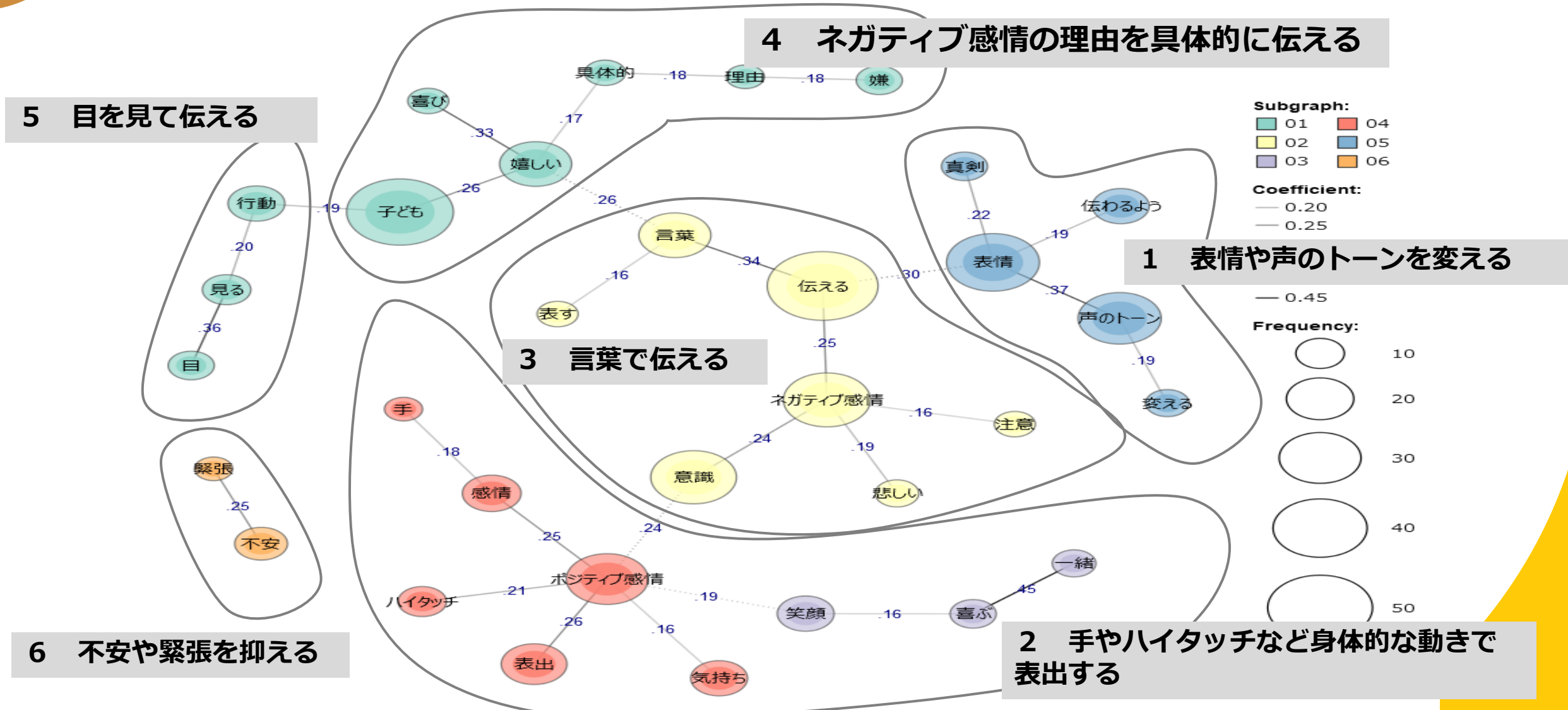


図2 「子ども」に対する感情管理の語の出現パターンを示す共起ネットワーク

【サブグラフの分類】出現回数が6回以上の頻出語（表1）を用いた共起ネットワーク図は、6つのサブグラフで構成された（図1）。01サブグラフの語の「目」「見る」「行動」についてKWICコンコーダンスで文脈を確認すると、他の語の文脈と異なる使われ方であったため、別グループと判断した。また、03サブグラフは、ポジティブ感情に関する記述が多かったため、04サブグラフと同グループと判断した。**以下6グループに分類した。**

	カテゴリー	記述例
1	表情や声のトーンを変える	ネガティブ感情では、やってはいけないということが伝わるように、普段より声のトーンを下げたり、わかりやすい言葉を使ったり、真剣な表情をして伝えたりするように心掛けた。
2	手やハイタッチなど身体的な動きで表出する	ポジティブ感情は、子どもが絶対にわかるように、笑顔やハイタッチ、グッドサインなどで視覚的にも表現することを意識した。
3	言葉で伝える	ポジティブ感情は子どもたちに伝わりやすく、「～してくれて嬉しかった！」と言葉にして伝えたり、笑顔など表情に表すように意識した。
4	ネガティブ感情の理由を具体的に伝える	具体的に言語化しながら、理由なども合わせて気持ちを伝えていく。
5	目を見て伝える	ネガティブ感情のときには、真剣な顔で子どもと体の向きをあわせ一対一で目を見て話した。
6	不安や緊張を抑える	研究保育の前など、私が緊張している気持ちが子どもたちに伝わってしまわないよう、普段の平常心を心掛け、普段通り遊びを楽しめるようにした。

結果：「保育者」に対する感情管理～頻出語～

テキストデータより，2477語が抽出され，そのうち945語を分析に用いた。

表2 「保育者」に対する感情管理の品詞別出現度の高い語（出現数4以上）

名詞			動詞		形容詞		形容動詞		タグ		
エピソード	18	感情	6	伝える	65	嬉しい	26	不安	39	ネガティブ感情	25
子ども	17	場面	6	話す	14	多い	4	素直	9	具体的	25
気持ち	14	表情	6	思う	8					ポジティブ感情	24
言葉	14	共有	6	聞く	6					園の先生	19
自分	14	実習	5	感じる	5						
表出	12	話	5	考える	4						
喜び	8	トーン	4	困る	4						
笑顔	8	アドバイス	4	出る	4						
相談	8	表現	4								
感謝	7										
質問	7										

「エピソード（18）」「言葉（14）」「伝える（65）」が頻出し，言語的アプローチにかかわる語が多く，「不安（39）」という語から，**実習生としてのネガティブ感情を伝えることが意識されていたことがうかがえる。**

結果：「保育者」に対する感情管理～語同士のつながり～

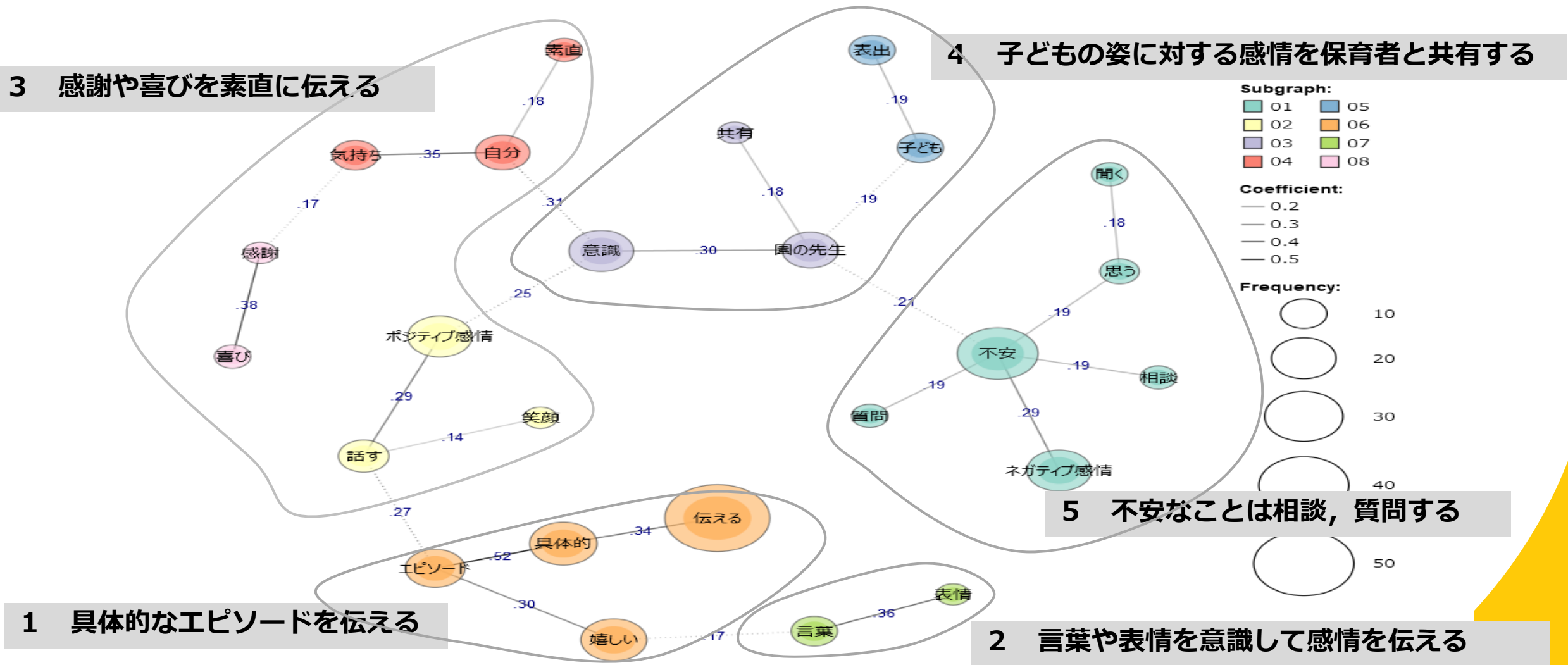


図3 「保育者」に対する感情管理の語の出現パターンを示す共起ネットワーク

【サブグラフの分類】出現回数が5回以上の頻出語（表2）を用いた共起ネットワーク図は、8つのサブグラフで構成された（図2）。02, 04, 08サブグラフの語の文脈を確認すると、ポジティブ感情の記述で、具体的な内容の文脈での使われ方がほとんど同じであったことから、同グループと判断した。以下5グループに分類した。

	カテゴリー	記述例
1	具体的なエピソードを伝える	具体的なエピソードを混ぜながら子どものこういった姿が嬉しかった、悲しかった、どうすればよいのか分からなかった、と伝えるよう意識し、 実習生の自分の見た子どもの姿を伝えられるようにした。
2	言葉や表情を意識して感情を伝える	・喜びや嬉しさは表情や言葉を使って明るく伝えた。 ・ネガティブ感情は、表情には出さず具体的なエピソード、困ったこととして言葉で伝え、どのように接すればいいかなど、園の先生と一緒に考えられるようにすることを意識した。
3	感謝や喜びを素直に伝える	喜びやうれしさなどのポジティブ感情を表出する際には、 園の先生に感謝しながら嬉しい気持ちを共有したり 、表現し、不安といったネガティブ感情を表出する際には自分の中で気持ちを整理してから話すことを意識した。
4	子どもの姿に対する感情を保育者と共有する	ポジティブ感情では、 その時のできる限り具体的な光景を伝えることで私の嬉しかった気持ちを共有することができるよう に心掛けた。
5	不安なことは相談，質問する	困ったことや不安なことがあればどのように変えていけばよいか 相談や質問をするようにした。

保育者志望度による特徴語の違い～子どもへの感情管理～

【志望度高群】 49名 (76.6%) 「非常になりたい」「できればになりたい」の回答者

【志望度低群】 15名 (23.4%) 「あまりなりたくない」「できればなりたくない」の回答者

高群の特徴

- ・ ポジティブ感情は、子どもを抱きしめたり**身体全体で表現する**。
- ・ 子どもと**一緒に喜んでいる**ことが伝わるようにした。

低群の特徴

- ・ **不安や緊張がなるべく伝わらないよう**に抑えた。

高群よりも低群の学生は、不安や緊張を抑制する傾向にある

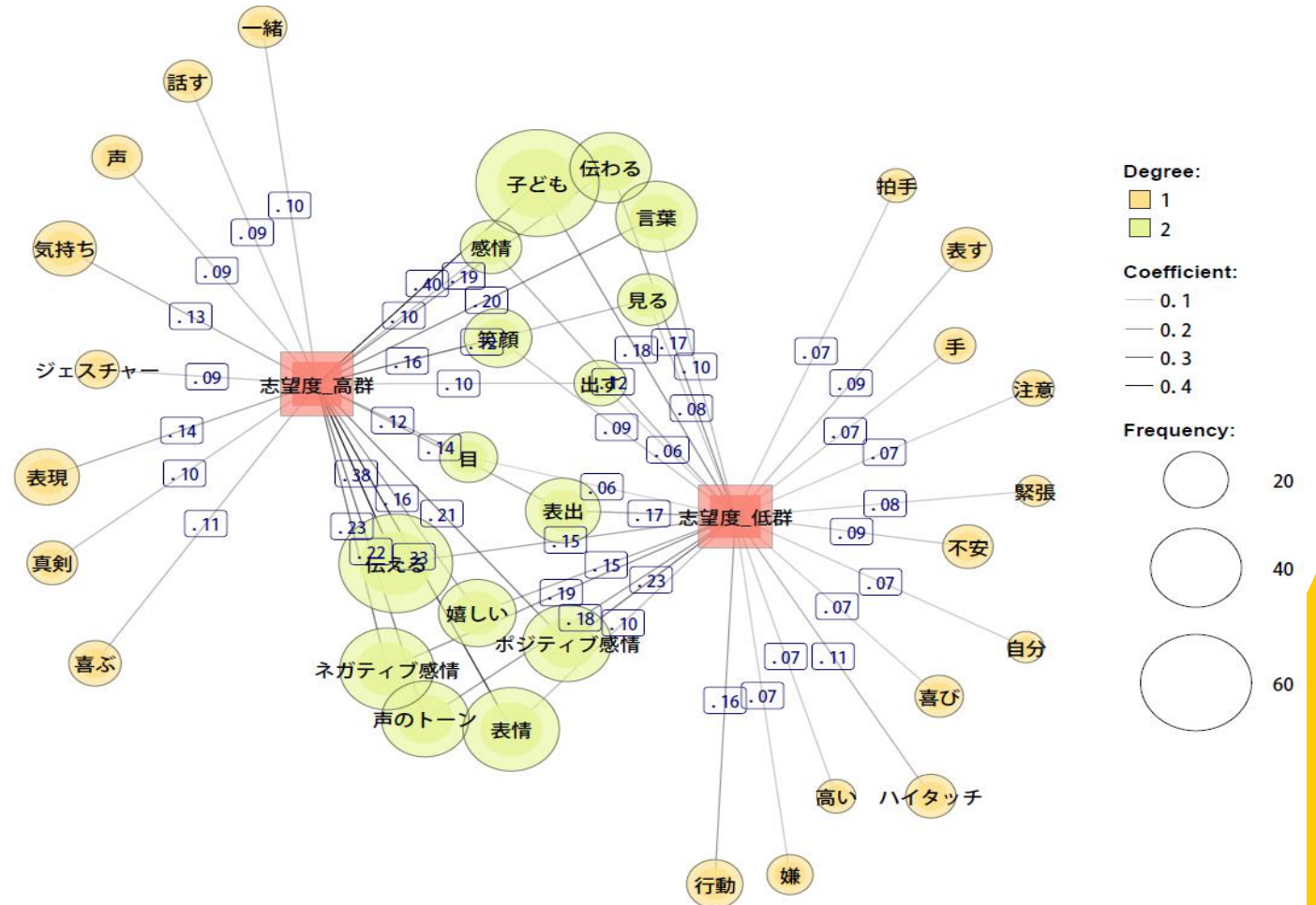


図4 保育者志望度群別の「子ども」に対する感情管理方略の特徴語

保育者志望度による特徴語の違い～保育者への感情管理～

【志望度高群】 49名 (76.6%) 「非常になりたい」「できればになりたい」の回答者

【志望度低群】 15名 (23.4%) 「あまりなりたくない」「できればなりたくない」の回答者

高群の特徴

- ・ 喜びや嬉しさ, 不安な気持ちを言葉にして**素直に伝える**ことを意識した。
- ・ 嬉しかったことも困ったことも積極的に**エピソードを交えて**伝える。

低群の特徴

- ・ 不安に感じたことは**質問する**。
- ・ 不安なところは見せないよう園の先生に**相談しながら**自分でコントロールした。

高群よりも低群の学生は, 実習生としての立場をより意識する傾向にある (緊張状態が強い?)

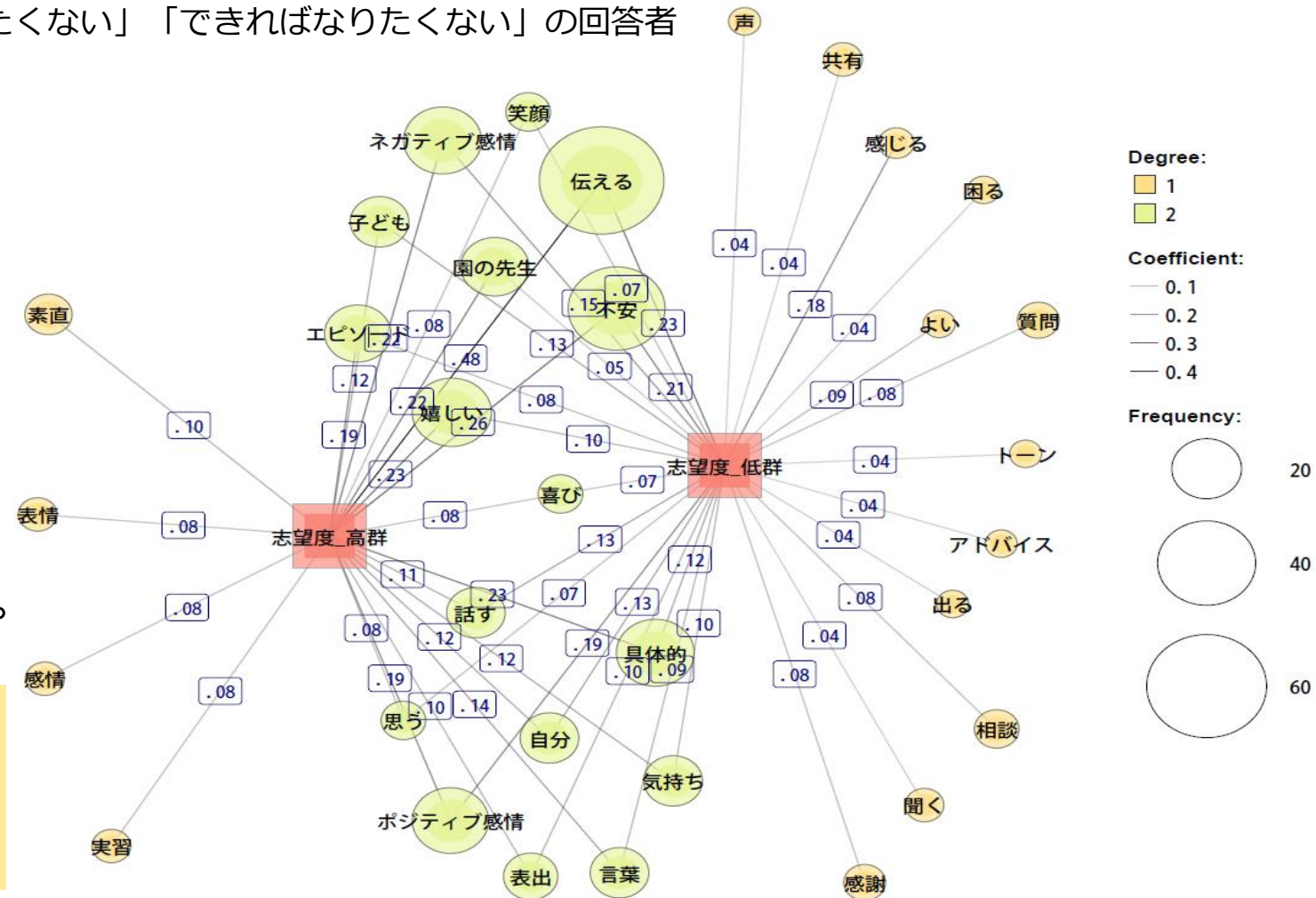


図5 保育者志望度群別の「保育者」に対する感情管理方略の特徴語

考察

- **子どもへの感情管理方略**

幼児期の子どもの発達に応じて、言葉だけでなく、非言語的アプローチを多く行っており、実習が「教育的演技」（伊佐，2009）を具体的に実践する機会となっていたと考えられる。

- **保育者への感情管理方略**

子どもの姿や子どもへの関わり方に対して「具体的」に「エピソード」として伝えること、また、実習中に感じた「不安」は、園の保育者に「相談」「質問」することで、積極的にネガティブ感情の管理を行っていることがうかがえた。

- **実習中の感情管理と保育者志望度**

実習後の保育者志望度の高低による感情管理の特徴が示された。「子どもに対する感情表出の操作」と「保育者に対する感情の隠蔽」が「抑うつ感」を介して保育者志望度の変化に影響（松尾ら，2023）することから、本結果を踏まえた対象や状況に応じた感情管理方略への学習の必要性が示唆された。

今後の課題

- ◆ 今回の対象とした実習は、保育所と幼稚園教育実習であったが、対象児の発達年齢を分けずに検討した。3歳未満児の場合、言語的な関わりや働きかけが3歳以上児とは異なることから子どもの年齢に応じた検討が必要である。
- ◆ 養成校教育において、保育学生の感情管理方略をどのように身につけていくのか、具体的な指導法などを検討していく。

引用文献

- 樋口 耕一・中村康則・周景龍 (2022).動かして学ぶ! はじめてのテキストマイニング, ナカニシヤ出版
- Hochschild, A. R. (1983). The managed heart: Commercialization of Human Feeling The University of California. (石川 准・室伏 亜希 (監訳) (2000). 管理される心 感情が商品になるとき 世界思想社)
- 伊佐夏美 (2009) .教師ストラテジーとしての感情労働 教育社会学研究, 84, 125-144
- 木村 優 (2015). 情動的实践としての教師の専門性—教師が授業中に経験し表出する情動の探究— 風間書房
- 松尾浩一郎・上山瑠津子・池田明子・森ありさ (2023) .保育所実習中の感情労働的経験が心理的ストレス及び保育者志望度に与える影響, 日本発達心理学会第35回大会論文集p.246ポスター発表6PM2-P-PS10,
- 太田光洋・高木勲・中山智哉 (2008) .感情労働の観点からみる保育実習における学生の学び, 保育士養成研究, 26, 39-46.
- 諏訪きぬ (監修) 戸田有一・中坪史典・高橋真由美・上月智晴 (編著) (2011) 保育における感情労働—保育者の専門性を考える視点として— 北大路書房
- 高橋真由美 (2012) .幼稚園教育実習における感情労働—笑顔の必要性和その価値を学生はどのように捉えているのか— 藤女子大学紀要, 49, 167-172.
- 上月 智晴 (2011). 保育における感情労働—保育者の専門性を考える視点として— 北大路書房, 149-152.

本研究課題の成果発表

【学会発表】

- 松尾浩一郎・上山瑠津子・池田明子・森ありさ，保育所実習中の感情労働的経験が心理的ストレス及び保育者志望度に与える影響，日本発達心理学会第35回大会，2023年3月6日ポスター発表，大阪
- 上山瑠津子・松尾浩一郎，保育学生の実習を通じた感情管理方略の検討—自由記述アンケートの分析から—，日本保育学会第77回大会，2024年5月11日ポスター発表 P-A-9-08（オンライン開催）



ありがとうございました。

ご質問やご意見いただければ幸いです。
よろしくお願いいたします。

